

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（3）

～ 勇気づけの教育の「勇気」とは ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦



石垣市教育委員会では、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める「勇気づけの教育」を推進しています。第3回は「勇気づけの教育」の「勇気」についてです。

まず、子育てで一番大切なことは、子どもが将来幸せな生活を送れるように「自立」の力をつけてあげることだと思います。子どもは、生まれてから独り立ちするまで、生きていくために必要な言葉や知識、知恵や生活力を人と関わりながら身につけていきます。その自立に向かう学びの中で、子どもが様々な問題や課題に直面した時、私たち大人は、子どもが「自分で考え、判断し、行動できる」ような勇気づけをしなければなりません。

本市教育委員会で定義する「勇気」とは、命がけで何かに果敢に挑んでいくような勇気ではなく、「困難を克服するための力」～あと一歩前へ進む力～としています。具体的には、①先が見えず、見通しが持てない部分もあるけれどチャレンジしていく決意、②ちょっと難しい課題だけど、がんばればできるとあきらめず努力していく決意、③一人では達成しにくい課題だけど、他の人と力を合わせればできると協力していく決意です。私たち大人が行う「勇気づけ」は、子どもが何らかの事情で躊躇して前に歩めない状況にある時、「あなたならできる」という自信を引き出してあげることです。

では、子どもは様々な壁にぶつかった時、どうすればそれを乗り越えようとする勇気を持つことができるのでしょうか。それは、「自分に自信を持つこと」に他なりません。なぜなら、自信があれば、困難に出会った時も、あきらめることなくチャレンジ、努力、協力し、一歩前へ進むことができるからです。

自分に自信のある子どもは、自己肯定感が高く、自分のことが好きな子どもです。人生は新しいこと、困難なことの連続とよく言われます。自己肯定感の高い子どもは、目の前の困難をいつも自分の頭で考え、判断し、解決に向けてチャレンジしていきます。一方、自己肯定感の低い子どもは、自分が思うようにいかないことがあると「できない」「無理」と思い込み、やる気を失って、後ろ向きな方向へと自分を追い込んでしまいます。近年の不登校や引きこもり、いじめや非行といった問題などは、自己肯定感の低い子どもが発している SOS のサインと言えます。

「セルフエスティーム」という言葉がありますが、日本では自尊感情とか自己肯定感と訳されています。これは、自分自身を価値ある者と感じる感覚で、自分自身を好きだと感じたり、自分を大切に思える気持ちのことで、「勇気づけの教育」のキーワードでもあります。自己肯定感の高い子どもは、何事に対しても積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていくことで、さらに自信が高まっていきます。その高まりにより子どもは、ありのままの自分を受け入れながら自分自信の行動に誇りをもち、直面する問題を乗り越える「勇気」が備わっていくのです。

本市教育委員会では、「勇気づけの教育」の情報を提供していきますので、共に推進していただきますようお願いいたします。